

2024 年度

名古屋大学大学院生命農学研究科
博士前期課程（冬季募集）

学生募集要項

名古屋大学大学院生命農学研究科

本研究科ではインターネット出願を導入しており、出願書類の提出の前にオンラインでの出願登録が必要になります。出願に必要なパソコンやプリンター等の機器、メールアドレス、顔写真データ、検定料の支払い方法、書類の提出方法等を十分確認のうえ、時間には余裕を持って出願を行ってください。なお、インターネット出願時に登録されたメールアドレスには、大学から入学試験に関する重要なお知らせが配信されますので、変更や削除の可能性がなく、日常的に確認できるメールアドレスを準備してください。

名古屋大学大学院生命農学研究科のアドミッション・ポリシー

(1) 入学者受入れの方針

生命農学を探究するために必要な学力を有し、高い専門性を持った指導者や技術者として、知識と能力を社会に役立てようという志をもつ国内外の人材を求めています。

(2) 選抜の基本方針

生命農学関連専門科目の知識・理解力と論理的思考力・応用力」を学力検査によって、「英語能力」を外部試験成績によって評価します。また、「志望する研究分野に対する明瞭な志向と勉学の熱意」および「その分野に関連する基本的な知識と理解力」を面接・口述試験によって評価し、入学者を選抜します。

個人情報の取り扱いについて

出願にあたって提供された住所・氏名・生年月日その他の個人情報は、入学選抜、合格発表、入学手続及びこれらに付随する事項並びに入学後の学務業務における学籍・成績管理を行うためのみに利用します。

また、取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外に使用いたしません。

※不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は、次のホームページ等により周知しますので、出願前や受験前は特に注意してください。

◇ 生命農学研究科受験生向けホームページ

URL <https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/jukensei/index.html>

◇ 連絡窓口

名古屋大学農学部・生命農学研究科 教務学生係

E-mail : kyomu@agr.nagoya-u.ac.jp



1. 出願資格

次の(1)～(10)のいずれかの条件を満たす者

(本研究科入学時まで、(1)～(10)のいずれかの条件を満たす見込みの者を含む)

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 大学改革支援・学位授与機構（旧大学評価・学位授与機構）により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学等において、修業年限が3年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 指定された専修学校の専門課程（文部科学大臣指定専修学校専門課程一覧）を修了した者
- (8) 旧制学校等を修了した者
- (9) 外国において学校教育における15年の課程若しくは我が国において外国の大学の課程（その修了者が学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

(注) 出願資格(9)により出願する者は、あらかじめ本研究科教務学生係へ照会し、所定用紙を2023年10月6日（金）までに（郵送の場合は16時必着で）提出してください。

- (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた22歳以上の者

(注) 出願資格(10)により出願する者は、13ページの「出願資格(10)による出願について」を参照してください。

2. 募集人員 若干名

3. 専攻及び研究室（ただし、募集を予定している研究室のみ）

専攻	研究室
森林・環境資源科学	土壌圏物質循環学 森林水文・砂防学 循環資源利用学 木材物理学 木材工学 生物システム工学
動物科学	動物遺伝育種 動物統合生理学 動物生殖科学 動物栄養科学 鳥類バイオサイエンス 水圏動物学 資源昆虫学 害虫制御学
応用生命科学	天然物ケミカルバイオロジー 糖鎖生命科学 生物化学 植物細胞機能

4. 志望専攻及び研究室について

入学志願者は、出願の前に余裕を持って志望先の研究室へ研究内容等について必ず問い合わせてください。

志望専攻・研究室は、「3. 専攻及び研究室」から選択してください。（「研究内容及び教員一覧」も併せて参照してください。）

5. 出願期間及び出願手続

次の(1)および(2)の両方の手続が必要です。

(1) インターネット出願システムでの出願登録と入学検定料の支払い

出願登録期間・検定料払込期間：2023年11月6日(月)から11月20日(月)

出願書類を提出する前に行ってください。

出願登録の方法は「7. インターネット出願の流れ」を、入学検定料については「8. 入学検定料の払込方法」を参照してください。

検定料の支払い期限は出願登録日を含め4日間*です。支払い期限内に入金がない場合、出願登録は自動的にキャンセルとなりますのでご注意ください(キャンセルとなったときは再登録してください)。

* 検定料の払込締切日までの日数が4日間より短い場合は、払込締切日が優先されます。

(2) 出願書類の提出

郵送と窓口持参の二つの方法があります。いずれの場合も11月20日までにインターネット出願登録を完了しておいてください。未登録の場合、出願書類の提出はできません。

郵送の場合

2023年11月20日(月)から11月24日(金)(最終日消印有効)

出願書類を郵送する場合は、インターネット出願システムから出力される「出願用宛名用紙」をカラーで印刷し封筒に貼りつけて、書留郵便で出願期間内(最終日消印有効)に送付してください。また、「6. 出願書類」に不備がある場合、受理しません。

出願書類の郵送先 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学農学部・生命農学研究科 教務学生係

窓口持参の場合

2023年11月20日(月)から11月24日(金)

受付時間：午前9時から午前11時30分まで、午後1時30分から午後4時まで

出願書類の提出にあたっては、インターネット出願システムから出力される「出願用宛名用紙」をカラーで印刷し封筒に貼りつけて、受付時間内に農学部・生命農学研究科 教務学生係に持参してください。また、「6. 出願書類」に不備がある場合、受理しません。

出願書類の持参先 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学農学部・生命農学研究科 教務学生係

6. 出願書類

提出書類	○必須 △該当者は 提出	
(1) 名古屋大学大学院 志願票及び写真票	○	[インターネット出願システムから出力されたものを、A4サイズで片面カラー印刷してください。] * 出願前3か月以内に撮影した正面向き、上半身、無帽、背景なしの顔写真データを用意し、インターネット出願システムからアップロードしてください。

(2) 名古屋大学大学院生命農学研究科志願票	○	本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、作成してください。
(3) 成績証明書	○	学部（教養課程を含む）の成績を証明するもの ※日本語あるいは英語で書かれていない場合は、英訳版を添付してください。
(4) 学位証明書（卒業証明書）あるいは卒業見込証明書	○	学士の学位を取得した大学の卒業（見込）を証明するもの * 中国の大学を卒業した者が出願する際の注意事項 中国の大学卒業者は、中国政府機関直轄の財団である『教育部学生服务与素质发展中心（CSSD）』から発行される認証書「中国高等教育学位认证报告」を印刷し、他の出願書類とともに提出してください。 認証書発行に関する手続きの詳細についてはCSSDのホームページ（ https://xwrz.chsi.com.cn/gateway ）で確認してください。 発行に時間がかかるため、手続きは早めに行ってください。
(5) TOEFL, TOEIC または IELTS スコアシート	○	「9. 考査実施方法」の「(3) 外国語（英語）試験におけるスコアシートの提出」の指示に従って提出してください。
(6) 受験承諾書	△	官公庁、会社等に在職の場合のみ提出 本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、作成してください。
(7) 類型該当性の自己申告書*	○	本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、作成してください。 詳細は、「*「(7) 類型該当性の自己申告書」の提出について」をご確認ください。

*「(7) 類型該当性の自己申告書」の提出について

経済産業省は2021年11月、「外国為替及び外国貿易法」（以下、外為法）に基づく「みなし輸出」管理の明確化を実施し、法令改正を行いました。

これによって大学における学生への機微技術の提供の一部が外為法の管理対象となることがあり、外国政府や外国の法人等の著しい影響下にある外国人、および邦人であっても外国政府等の強い影響下にある場合には、輸出許可申請が必要となります。

1) 受験者全員が大学院への出願時に「類型該当性の自己申告書」（様式1）を提出していただきます。

なお、様式1の自己申告で類型に該当する方は、以下の資料を併せて提出してください。

- ・外国政府・企業等の機関に雇用されている者：雇用証明書
- ・外国政府・企業等の機関から個人として受けとる研究資金や奨学金がある場合：奨学金の受給通知もしくは申請書など

2) 大学院入試合格時に「誓約書」を提出していただきます。

7. インターネット出願の流れ

インターネット出願の流れ

出願完了までの流れは、以下の通りです



STEP

1

事前準備

インターネットに接続されたパソコン、プリンターなどを用意してください。
必要書類※は、発行まで時間を要する場合があります。早めに準備を始め、出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。

※必要書類…顔写真データ、各種証明書(※詳細は各研究科学生募集要項参照)



STEP

2

インターネット出願サイトにアクセス

インターネット出願サイト ▶ <https://e-apply.jp/ds/nagoya-gs/>



STEP

3

マイページの登録

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお、マイページの登録がお済みの方は、STEP4に進んでください。

- ① 初めて登録する方は **マイページ登録** からログインしてください。
- ② メールアドレスの登録を行って **仮登録メールを送信** をクリックしてください。
- ③ ユーザー登録画面から **ログインページへ** をクリックしてください。
- ④ 登録したメールアドレスに初期パスワードと本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。
- ⑤ ログイン画面から登録したメールアドレスと④で届いた『初期パスワード』にて **ログイン** をクリックしてください。
- ⑥ 初期パスワードの変更を行ってください。
- ⑦ 表示された個人情報を入力して **次へ** をクリックしてください。
- ⑧ 個人情報を確認して **この内容で登録する** をクリックしてください。



⑨登録完了となります。
マイページへ
をクリックしてください。



⑩上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ、**出願手続きを行う** ボタンをクリックすると出願手続に進めます。
出願受付期間外の場合は、これより先に進めませんので **ログアウト** ボタンをクリックしてください。

STEP

4

出願内容の登録

画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。



①マイページログイン後の
出願手続きを行う ボタン
から登録画面へ



②研究科の選択



③入試区分と留意事項の確認



④出願専攻等の選択



⑤顔写真のアップロード
写真選択へ ボタンをクリックし
写真を選択します。



⑥個人情報(氏名・住所等)の
入力



⑦出願内容の確認
志願票(サンプル) ボタンを
クリックすると志願票、写真票、宛名シート
が確認できます。

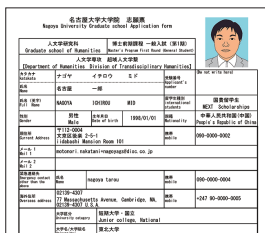


⑧申込登録完了
引き続き支払う ボタンを
クリックし検定料のお支払い画面へ。



お支払い期限は申込日を含め4日間
です。ただし、Web出願締切がそれ
よりも早く到来する場合、Web出願締切
が期限となります。

⑨入学検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ペイジー対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード



⑩出願に必要な書類PDF
(イメージ)
※検定料納入後に出力可能となります。

入学検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は、支払い方法の
選択後に表示されるお支払いに必要な番号を下記メモ欄に控えたうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンス
ストアまたはペイジー対応銀行ATMにてお支払いください。

セブン-イレブンの場合

払込票番号
メモ(13桁)

デイリーヤマザキ、セイコーマートの場合

オンライン決済
番号メモ(11桁)

ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、ペイジー対応銀行ATMの場合

お客様番号
メモ(11桁)
確認番号
メモ(6桁)

収納機関番号
(5桁) **5 8 0 2 1** ※収納機関番号は、ペイジーで
お支払いの際に必要となります。

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元(@e-apply.jp)からのメール受信を
許可してください。 ※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。



入学検定料支払い後は、登録内容の修正・変更ができませんので、入学検定料支払い前に必ず登録内容を確認し、誤りがあれば、再度登録してください。

※「入学検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。



入学検定料の支払い

お支払い期限は申込日を含め4日間です。
ただし、Web出願締切がそれよりも早く到来する場合、Web出願締切が期限となります。

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】

VISA, Master, JCB, AMERICAN EXPRESS, MUFGカード, DCカード, UFJカード, NICOSカード



出願登録時に支払い完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されていることが必要です

Webで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

●店頭端末を利用して支払い可能



Loppi



マルチコピー機



4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

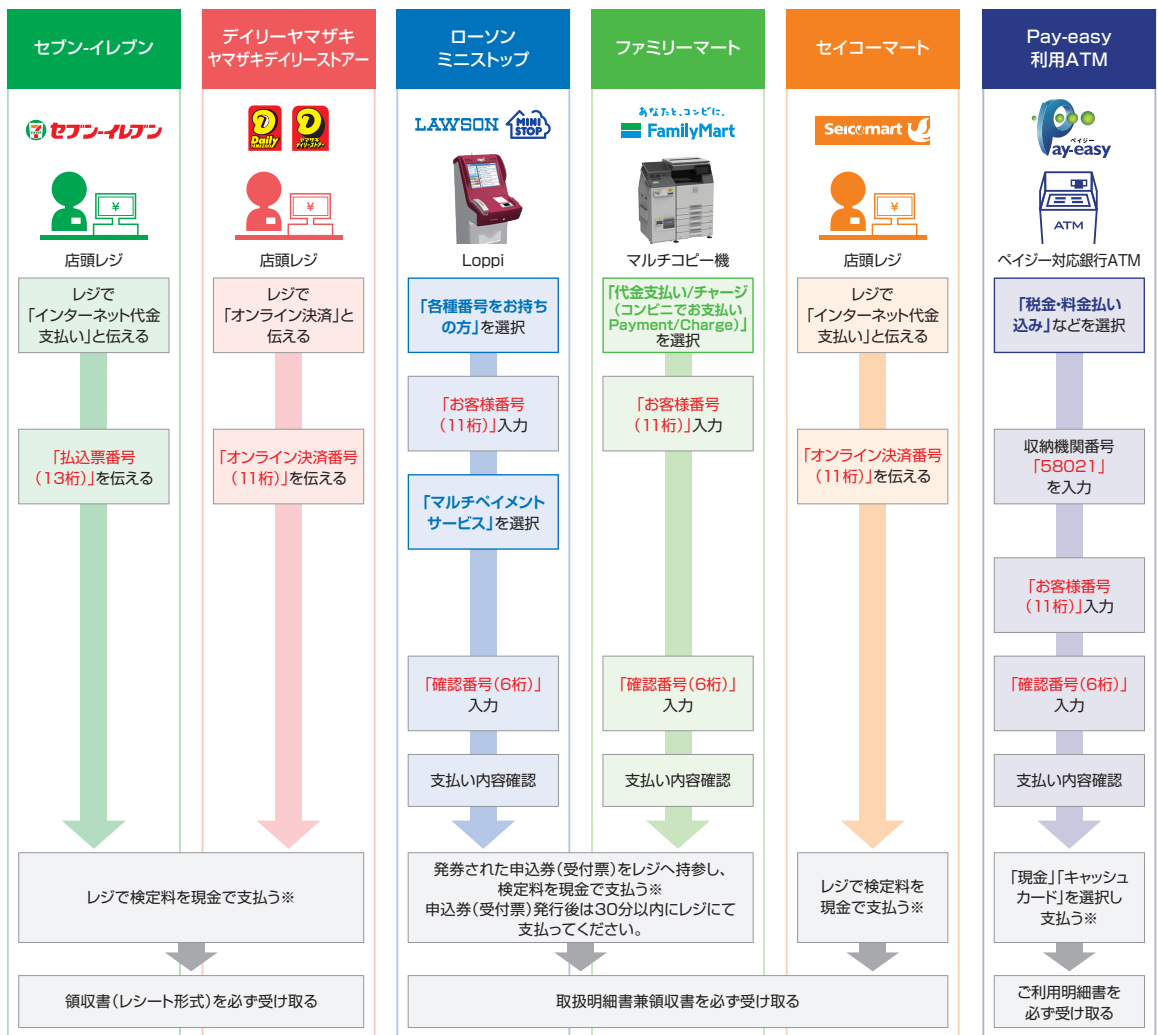
出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。



※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア



※ゆうちょ銀行・銀行ATMを利用する場合、現金で10万円を超える場合はキャッシュカードで支払ってください。コンビニエンスストアを利用の場合は現金で30万円までの支払いとなります。

STEP

6

必要書類の印刷と郵送

出願登録、入学検定料の支払後にダウンロードできる書類を全て**カラー印刷**し、その他の必要書類と併せて出願期間内に郵便局窓口から「**書留速達郵便**」で郵送してください。

出願に必要な書類

⚠ 募集要項を必ず確認してください

- インターネット出願サイトから印刷する書類
志願票 写真票
- 本学研究科のホームページからダウンロードし、作成する書類
履歴書 など
- 出身大学等に発行を依頼する証明書
証明書



出願書類提出用宛名シート

市販の角形2号封筒(24cm×33.2cm)に貼り付けて作成

出願書類の郵送先は宛名シートに自動で印字されます。

■ 出願書類

1回の出願登録につき各1部必要です。出願に必要な書類は学生募集要項を参照してください。

※一旦受理した入学検定料・必要書類は学生募集要項で明記しているものを除き一切返却しません。

〈出願完了〉

出願時の 注意点

出願はインターネット出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、必要書類を郵送して完了となります。インターネットでの登録が完了しても出願書類の提出期限に書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。

それぞれの期限は各研究科の学生募集要項を参照してください。

インターネット出願は24時間可能です。必要書類の郵送は各募集要項で定められた時間内に行ってください。ゆとりを持った出願を心がけてください。

STEP

7

受験票の印刷

出願を受け付けた後、受験票の印刷が可能になりましたら、出願時に登録されたメールアドレスへ通知します。メールが届かない場合でも、試験前日までにインターネット出願サイトにログインし、各自で**A4用紙にカラー片面印刷**をして**試験当日に持参**してください。



8. 入学検定料の払込方法

(1) 入学検定料 30,000円

検定料のほかに支払手数料（500円程度）が必要となります。

なお、誤って「検定料の免除について」を選択し、入学検定料を支払わずに出願した場合は受理しませんのでご注意ください。

(2) 払込期間（日本時間）*インターネット出願登録期間と同じです。

2023年11月6日（月）～11月20日（月）

(3) 払込方法

入学検定料の支払いは、以下のいずれかの方法で行ってください。詳細は「7. インターネット出願の流れ」の「STEP 5（入学検定料の支払い）」を参照してください。

- ・クレジットカード
- ・ネットバンキング
- ・コンビニエンスストア
- ・Pay-easy対応銀行ATM

(4) 入学検定料の返還について

出願書類を受理した後は、納入済みの入学検定料は返還いたしません。ただし、以下に該当する場合は、納入された入学検定料を返還します。なお、返還にかかる振込手数料は差し引かせていただきます。

ア 入学検定料納入後、出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合

イ 入学検定料を二重に払い込んだ場合

※ 入学検定料の返還は銀行振込で行われます。海外の銀行の口座に返還する場合には、返還される金額が大きく減額される他、返還に多大な日数を要しますので、入学検定料の納入は慎重に行ってください。

返還請求方法については、名古屋大学ホームページ (<https://www.nagoya-u.ac.jp/>) → 入学案内 → 大学院入試 → 入学検定料の返還について を確認してください。

9. 考査実施方法

(1) 筆記試験日時

科目	日 時		備 考
専門科目	1月4日(木)	10時00分から 13時00分まで	全専攻

(2) 筆記試験科目及び選択方法

専門科目

別紙「筆記試験科目及び選択方法（専門科目）」による。

(注) 出願時に申請した専門科目は変更できないので注意してください。

(3) 外国語（英語）試験におけるスコアシートの提出

外国語（英語）の試験については、TOEFL、TOEICまたはIELTSのスコアによる判定を行う。

① 試験の方法

TOEFL、TOEICまたはIELTSのいずれか1つのスコアシートを提出すること。筆記試験は実施しない。TOEFL、TOEICまたはIELTSの得点は以下の方法で算出したものを外国語得点として採用する。

■ TOEFL iBT を利用した場合：

英語得点 = $50 + (\text{TOEFL iBT スコア} - 50) \times 5/3$ （100点以上は100とする）

- TOEFL iBT Home Edition を利用した場合 :
英語得点 = $50 + (\text{TOEFL iBT Home Edition スコア} - 50) \times 5/3$ (100 点以上は 100 とする)
- TOEFL ITP を利用した場合 :
英語得点 = $\text{TOEFL ITP スコア} \times 0.34 - 108$ (100 点以上は 100 とする)
- TOEIC を利用した場合 :
英語得点 = $\text{TOEIC スコア} / 10$ (80 点以上は 80 点とする)
- TOEIC-IP を利用した場合 :
英語得点 = $\text{TOEIC-IP スコア} / 10$ (80 点以上は 80 点とする)
※TOEIC-IP オンラインは利用できません。
- IELTS (Academic Module) を利用した場合 :
英語得点 = IELTS オーバーオール・バンドスコア 6.0 以上は 100 点, 5.5 は 82 点, 5.0 は 68 点

※ ただし、換算された英語得点が 60 点未満の場合は不合格となる。 その場合でも検定料の返還は行わないので注意すること。

② 対象となるスコア

TOEFL iBT, TOEFL iBT Home Edition, TOEFL-ITP, TOEIC (Listening & Reading Testに限る) TOEIC-IP (Listening & Reading Testに限る) 及び IELTS (Academic Module) のいずれかの試験の成績を採用する。なお、留学生で TOEIC-PBT のスコアを有している者はあらかじめ教務学生係に相談すること。

③ スコアシートの提出

スコアシートは、出願期間内に提出してください。(それ以降の提出は受け付けません。なお、スコアシートの提出後の差し替えは一切認めません。)

- TOEFL iBT, TOEFL iBT Home Edition のスコアシートを提出する場合

以下の(1)と(2)の両方を提出してください。

(1)と(2)のいずれか一方でも期限に到着しなかったときは、スコアシートの提出はなかったものとして扱う。

- (1) 公式スコア「Institutional Score Report」または「Official Score Report」
- (2) 受験者に届く「Test Taker (Examinee) Score Report (コピー)」

なお、スコアシートを提出する際は、以下の点に留意すること。

- 1) 「Institutional Score Report」または「Official Score Report」は、出願期間内に ETS から名古屋大学に届くように所定の手続きをすること。(手続き時に名古屋大学の Institution Code 0312, Department Code を適切に指定すること。適切な Department Code がない場合は、99 と指定すること。) なお、TOEFL の受験後「Institutional Score Report」または「Official Score Report」が指定送付先に到着するまでに 6~8 週間程度かかるとされている。到着が遅れる場合もあるので、十分な時間的余裕を持って TOEFL を受験すること。
- 2) 「Institutional Score Report」を提出する場合は、「Test Date Scores」のみを活用する。(My Best スコアは活用しない。)
- 3) 「Test Taker (Examinee) Score Report」のコピーを出願時に提出すること。

- TOEFL-ITP のスコアシートを提出する場合

「受験者用控え (薄紫色のカード)」の原本を出願時に提出すること。

- TOEIC のスコアシートを提出する場合

「Official Score Certificate」(公式認定証)の原本を出願時に提出すること。

デジタル公式認定証を利用する場合は、PDF を印刷したものを提出すること。

- TOEIC-IP のスコアシートを提出する場合
「スコアレポート（個人成績表）」の原本を出願時に提出すること。
※TOEIC-IP オンラインのスコアは利用できません。

- IELTS (Academic Module) のスコアシートを提出する場合
「Test Report Form」の原本を出願時に提出すること。

④ スコアシートの有効期限

入学試験実施日から過去2年以内（2022年1月4日以降）に実施され、出願時に提出可能なものを有効とする。

TOEIC「Official Score Certificate」（公式認定証）の返却は行わないので注意すること。

(4) 試験場

名古屋大学大学院生命農学研究科（農学部）

市バス「名古屋大学」、地下鉄「名古屋大学」駅下車、又は地下鉄「東山公園」駅下車南へ500m

(5) 第1次合格者発表

1月4日（木）18時頃、生命農学研究科ホームページ（<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/>）に掲載する。第1次合格者については、口述試験を行う。

(6) 口述試験

1月5日（金）9時から各専攻別に第1志望の口述試験を行う。

10. 合格者発表

2024年1月9日（火）午前10時頃、生命農学研究科ホームページ（<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/>）に掲載します。後日郵送にて本人あて通知します。

11. 入学手続

(1) 入学手続の詳細は、2024年3月初旬までに本人あて通知する。

(2) 入学料 282,000円（予定額）

(3) 授業料 前期分 267,900円（予定額）
（年額 535,800円（予定額））

（注）在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

(4) 入学手続日は、2024年3月15日（金）の予定です。

12. 注意事項

(1) 出願手続後の書類の書き換え及び検定料の払い戻しはできません。

(2) 考査実施の詳細は、試験当日掲示します。受験者は試験開始20分前までに試験室に入室してください。

(3) 入学試験結果の開示対象は、本入学試験に不合格となった者としてします。試験後の2週間～2か月以内に請求してください。開示手続きの詳細は、名古屋大学農学部・生命農学研究科 教務学生係（kyomu@agr.nagoya-u.ac.jp）にメールでお問い合わせください。

(4) 障害等がある者等で、試験場での特別な配慮を必要とする者は、2023年10月27日(金)までに、次の3点を農学部・生命農学研究科教務学生係へ提出してください。

- 1) 受験上の配慮申請書(障害の状況、受験上配慮を希望する事項とその理由等を記載したもの、A4サイズで様式は自由です。)
- 2) 障害等の状況が記載された医師の診断書、障害者手帳等(写しでも構いません)。
- 3) 障害等の状況を知っている第3者の添え書(専門家や出身学校関係者などの所見や意見書)。
- 4) 適宜それ以外の書類を添付しても構いません。

なお、入学後の修学に関して相談の希望がある場合は、出願期限までにお問い合わせください。

13. その他

長期履修制度について

生命農学研究科では、2022年度から長期履修学生制度を実施しています。

長期履修学生制度とは、職業を有している、育児・介護を行う必要がある等の事情により時間的制約があり、標準修業年限では修了が困難な学生に対して、標準修業年限を超えて一定の期間にわたって教育課程を履修し、学位取得することを認める制度です。

制度の詳細は、農学部・生命農学研究科 教務学生係にお問い合わせください。

入学試験についての照会先 ※必ずメールでお問い合わせください。

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学農学部・生命農学研究科 教務学生係
E-mail : kyomu@agr.nagoya-u.ac.jp

2023年9月

名古屋大学大学院生命農学研究科
<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp>

出願資格(10)による出願について

1. 出願資格

出願資格(10)により出願する者は、本研究科において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、本研究科入学時までには22歳に達している者。

2. 個別審査

出願資格(10)により出願する者は、あらかじめ次の書類を2023年10月6日(金)[必着]までに、農学部・生命農学研究科教務学生係〔「13. その他」の「入学試験についての照会先」を参照〕へ提出又は郵送（書留郵便で封筒の表に「前期課程事前審査申請」と朱書）し、出願資格の有無についての個別審査を願い出てください。

本研究科で個別審査を実施し、その結果は2023年11月3日(金)までに本人あて通知します。

(1) 出願資格(10)による出願資格審査願

本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、本人が記載してください。

(2) 大学を卒業した者と同等以上の学力があることを示す資料

※資料は下記の項目から該当するものを全て提出してください。例：1)と3)

1) 履歴に短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校等の学歴を有する者

これらについての卒業又は修了証明書（今年度中に卒業又は修了する見込みの者については、その証明書）、成績証明書及びシラバス（授業要目）

2) 履歴に技術的・専門的職業についての職歴を有する者

その期間及び職務内容を明記した在職証明書及び本人の作成した成果報告書（様式自由）

3) 履歴に研究歴を有する者

研究歴証明書（本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、所属の長等が証明したもの）、研究実績調書（本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、本人が記載）及び、研究成果報告書（本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、本人が4,000字程度で作成、論文形式とします）

4) 業績として学術論文、著書、研究発表、特許、作品等を有する者

これらを示す資料

(3) その他、審査の参考となる資料（自薦、他薦による推薦書など）

(4) 返信用封筒 1通 出願資格審査結果通知用

長形3号封筒（12×23cm）に本人のあて名を記入し、374円切手を貼ったもの。

宛先が海外の場合は、返信に必要な郵便料金の国際返信切手券（IRC）を同封してください。

3. 出願期間

出願資格審査の結果、出願資格「有」と判定された者は、「6. 出願書類」を、2023年11月20日（月）から11月24日（金）までに教務学生係へ提出してください。

郵送で出願する場合は、「5. 出願期間及び出願手続」の指示に従ってください。

筆記試験科目及び選択方法（専門科目） 冬季募集向け

専 門 科 目	内 容 と 選 択 方 法
1 応 用 数 学	
2 材 料 力 学	
3 物 理 化 学	
4 有 機 化 学	<p><内容></p> <p>専門科目の内容については生命農学研究科のホームページを参照してください。</p>
5 生 物 化 学	<p>https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/</p>
6 遺 伝 学	
7 微 生 物 学	
8 細 胞 生 物 学	
9 植 物 生 理 学	
10 動 物 生 理 学	<p>専門科目（1～24）の中から2科目選択してください。</p>
11 動 物 形 態 学	<p>ただし、取り消し線が引いてある科目は選択できません。</p>
12 昆 虫 科 学	
13 生 態 学	
14 水 文 学	
15 土 壌 学	
16 森 林 資 源 学	
17 バイオマス科学	
18 天然高分子化学	
19 植物生産科学	
20 動物生産科学	
21 水産動物学	
22 植物保護学	
23 食料経済学	
24 国際農学	

「名古屋大学大学院生命農学研究科志願票」に受験予定専門科目を記入してください。

出願時に申請した専門科目は変更できませんので注意してください。

【卓越大学院プログラムについて】

卓越大学院プログラムは、文部科学省が 2018 年に導入した 5 年一貫の博士課程プログラムです。大学院生が研究と多様な能力の開発に打ち込めるようにするため、特別な経済的支援が用意され、さらに、TA や RA を通して指導能力を学び、追加の収入が得られるような仕組みが用意されています。生命農学研究科では、以下のプログラムに参画しています。

トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム (GTR)

応用生命科学専攻、植物生産科学専攻、森林・環境資源科学専攻、動物科学専攻は2018年度より本プログラムに参画しています。

詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.itbm.nagoya-u.ac.jp/gtr/>

情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス卓越大学院 (CIBoG)

応用生命科学専攻は2019年度より本プログラムに参画しています。

詳細は以下のHPをご覧ください。

<https://cibog.med.nagoya-u.ac.jp>

The WISE Program (Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education) is an integrated five-year program introduced by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology in 2018. Special financial support has been put in place to support graduate students as they go about their research activities and develop a diverse range of skills. Systems have also been developed to help students acquire teaching skills and obtain additional income through the TA and RA programs. Graduate School of Bioagricultural Sciences has been involved in the following programs.

Graduate Program of Transformative Chem-Bio Research (GTR)

Department of Forest and Environmental Resources Sciences, Plant Production Sciences, Animal Sciences, and Applied Biosciences have been involved in this program since 2018.

For more details, please see the following website:

<http://www.itbm.nagoya-u.ac.jp/gtr/en/>

Convolution of Informatics and Biomedical Sciences on Glocal Alliances, CIBoG

Department of Applied Biosciences has been involved in this program since 2019.

For more details, please see the following website:

<https://cibog.med.nagoya-u.ac.jp/en>

研究内容及び教員一覧

専攻	研究室名	研究内容	教員			
			教授	准教授	講師	助教
1 ・ 森 林 ・ 環 境 資 源 科 学	1 土壌圏物質循環学	土壌圏を中心とした環境中における炭素、窒素、微量元素の循環、土壌有機物特に腐植物質の構造・機能・動態に関する研究。	渡邊 彰			
	2 植物土壌システム	植物、土壌、微生物の三者間の相互作用を解明することにより、森林生態系(とくに人工林)の持続性、健全性を検証する研究。		谷川東子		
	3 森林水文・砂防学	森林を主体とした地域や流域スケールでの水循環や土砂動態の解明とともに、地域社会とその災害の脆弱性の解明を行うことで、自然と社会の多様なスケールでの持続的資源管理を可能とする研究とその社会実装。	五味 高志	田中 隆文		小谷 亜由美
	4 森林生態学	森林生態学、森林遺伝学、森林生態生理学に関する広範な研究。特に、森林群集の構造、動態、機能および樹木個体群の遺伝的多様性、繁殖生態、生態生理、物質生産に関する研究。	戸丸 信弘	中川 弥智子	小川 一治 (2024年3月退職予定)	
	5 森林保護学	森林や里山など緑域環境における生物群集の存在様式や生物間相互作用、生態系保全に関する研究。	梶村 恒		土岐和多瑠	
	6 森林資源管理学	森林の先端的計測技術の開発、森林資源管理に関わる理論の構築、森林の将来計画立案とその評価手法の開発に関する研究。	山本 一清			
	7 森林社会共生学	森林保全と地域住民の生計向上をめざした森林管理政策、森林認証制度、参加型森林管理、コミュニティフォレストリーや、木材・木材製品をめぐる企業の原木調達戦略に関する研究。	原田 一宏	岩永 青史		
	8 森林化学	木質系バイオマスの形成過程とその構造、および高度利用に関する有機化学的、生化学的、分析化学的な研究。	福島 和彦	青木 弾		
	9 循環資源利用学	樹木抽出成分の単離・構造決定、生合成、分布および利用に関する研究。		今井 貴規		
	10 木材物理学	樹木の成長過程と成長応力及び材質発現機構、熱帯造林樹種の成長と木部成熟特性、木質形成の分子生物学、生物材料の水分・熱および力学特性。	山本 浩之	吉田 正人		
	11 木材工学	木材・木質材料の構造利用における力学的耐久性、木質構造の力学挙動解析、森林資源の材質分布と需給計画、木質による都市環境デザインなどに関する研究。	山崎 真理子			安藤 幸世
	12 生物システム工学	生物資源を対象とした非破壊計測システムおよびデータサイエンスに関する研究。	土川 覚	稲垣 哲也		

*** 特任助教

(2023年10月1日現在)

研究内容及び教員一覧

専攻	研究室名	研究内容	教員			
			教授	准教授	講師	助教
2 植物生産科学	13 植物生理形態学	植物細胞・組織の機能分化や環境ストレスに対する応答・耐性について、構造と機能の両面からの理解を図り、作物をはじめとする様々な有用植物の生理機能解明とその応用展開を行う。	谷口 光隆	三屋 史朗		大井 崇生
	14 植物遺伝育種学	栽培植物の系統分化、形態形成、発生および環境ストレス耐性に関する遺伝育種学的、分子遺伝学的、分子生物学的、および生理学的研究	中園 幹生	高橋 宏和		縣 歩美
	15 作物科学	作物生産の生理・生態学的解析、とくに環境応答・資源獲得に関する研究。	近藤 始彦	矢野 勝也	杉浦 大輔	
	16 園芸科学	果樹、野菜、花きなどの園芸作物の品質と生産性を向上するためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に、果実や花の形質をに関わる、遺伝子組換えやゲノム編集などの分子育種、マルチオミクス、メタボローム解析とメタボリックエンジニアリング。		白武 勝裕		
	17 植物病理学	植物病原体の感染に対する植物の生体防御機構、植物病原体や有用微生物と植物の相互作用に関する生理学・生化学・分子生物学的研究。それらの成果を基盤とした生物防除法の開発に関する研究。	竹本 大吾	千葉 壮太郎		佐藤 育男
	18 植物免疫学	植物病原菌や害虫との相互作用で誘導される植物免疫の分子機構に関する研究。このメカニズムに基づく植物ワクチンの開発。		吉岡 博文		
	19 耕地情報利用	作物の遺伝情報、形態、生理特性、生産物の収量や品質、土壌や気象等の生育条件等の様々な情報を収集し、それらの関係性を情報学的手法で解析することで有益な情報を抽出し、品種改良や栽培管理の改善を通じて作物生産を向上させるための研究	村瀬 潤	土井 一行		西内 俊策 沢田 こずえ***
	20 食料経済学	食料・農業問題、地域資源管理、農業の多面的機能等に関する社会科学的小および学際的研究。	徳田 博美	竹下 広宣		三浦 聡
	21 植物遺伝子機能	植物の遺伝子機能を明らかにする研究およびその利用に関する研究。	芦苺 基行	保浦 徳昇*		永井 啓祐
	22 発生学・システム植物学	高精細イメージングと多階層オミクスを駆使して花と根の発生をシステムとして理解する。フロリゲンの分子機能解明。植物成長と環境適応を支える根の組織構造の解明。	辻 寛之	山内 卓樹		
	23 植物ゲノム育種	環境・エネルギー・食の問題など、現代社会の課題解決を目指し、作物ゲノムビッグデータを活用しつつ、基礎研究から社会実装を見据えた応用研究まで一貫通貫型の先駆的育種学研究を展開する。	佐塚 隆志			岡田 聡史
	24 生物産業創出	植物資源の価値化・保全へ向けた、接ぎ木、植物の全身性シグナル伝達メカニズムを中心とする基礎から応用までの研究。	野田口 理孝		黒谷 賢一** 笠原 竜四郎**	
	25 熱帯生物資源	熱帯地域の持続的可能な農業開発を目指し、世界の食需要の多様化や気候変動に対応するための熱帯原産農林資源の探索や形質評価を行う。	江原 宏			仲田 麻奈
	26 生物遺伝情報	気候変動下での安定的な作物生産を目指し、生物資源の有用形質遺伝情報の抽出・利用に関する研究を行う。	犬飼 義明			
27 実践アフリカ開発	アフリカの作物生産の向上と安定化に貢献するため、作物遺伝資源の環境応答や栽培技術開発に関する研究に取り組み、研究成果に基づく社会実装の実現を目指す。		槇原 大悟			
28 実践アジア開発	アジアの熱帯地域における持続的な適正農林業生産技術の開発、新資源・技術の馴化と普及を図り、研究成果に基づく社会実装を実現することを目指す。		伊藤 香純			

* 特任准教授
** 特任講師
*** 特任助教

(2023年10月1日現在)

研究内容及び教員一覧

専攻	研究室名	研究内容	教員			
			教授	准教授	講師	助教
3 動物科学	29 動物遺伝育種学	哺乳類および鳥類における様々な質的形質と量的形質の遺伝的基盤に関する研究、ゲノム編集等の発生工学を用いる動物の進化遺伝学研究、動物遺伝資源の評価と保全・利用に関する研究、ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成に関する研究。	隅山 健太	石川 明		山縣 高宏
	30 ゲノム・エピゲノムダイナミクス	脊椎動物や昆虫におけるトランスポゾンや遺伝子のエピジェネティック制御機構の研究。生殖細胞形成期のエピゲノム制御機構の研究。種間および種内でのエピゲノムやゲノムの比較解析を通じた、ゲノムとエピゲノムの相互作用に関する研究。トランスポゾンの活性化によるがん細胞増殖抑制機構の研究。	一柳 健司			大谷 仁志
	31 動物形態学	脊椎動物における形成と変形に関わる研究。脊椎動物におけるウイルスの内在化および内在化ウイルスの役割。Transgenerational epigenetic inheritance (TEI)。	本道 栄一			飯田 敦夫
	32 動物統合生理学	脊椎動物(哺乳類、鳥類、魚類)の季節適応機構と概日時計機構の解明。季節繁殖や概日時計の制御を通じた動物生産性の向上とヒトの健康の増進に関する研究。ニワトリにおける成長制御と成長因子発現調節に関わる研究。	吉村 崇	大川 妙子	金 尚宏**	塚田 光 中山 友哉***
	33 動物生殖科学	哺乳類の生殖機能制御を担う神経内分泌学的な基礎研究と、そのメカニズムを利用した畜産や創薬への応用研究。	東村 博子	上野山 賀久 井上 直子		
	34 動物栄養科学	鳥類と哺乳類における栄養素(アミノ酸やビタミンCなど)の代謝機構と、それらの代謝産物が持つ生理機能の探索。鳥類の卵に含まれる生体分子の取り込み機構の解明とその仕組みを利用した有用タンパク質生産への応用。	村井 篤嗣			古川 恭平
	35 動物生産科学	反芻家畜の生理機能の調節機序に関する基礎研究とその機能を利用した動物生産にかかわる応用研究。	大蔵 聡	松山 秀一 中村 翔*		
	36 鳥類バイオサイエンス	鳥類有用遺伝形質を利用した遺伝学・分子細胞生物学。鳥類遺伝子改変技術の作出と医薬品生産を目指した利用。	西島 謙一			奥寺 雄也
	37 水圏動物学	水産動物の神経系、感覚器、運動器に関する形態学的、生理・生態学的、進化的行動学的研究、ならびにペプチドニューロンによる感覚・神経系～行動の持続的制御に関する神経生理学的研究。	山本 直之	阿部 秀樹		後藤 麻木 萩尾 華子***
	38 資源昆虫学	昆虫ウイルスの増殖機構とウイルスと宿主昆虫との相互作用、昆虫の抗ウイルス応答機構についての研究。	池田 素子			浜島 りな
39 害虫制御学	生理生化学・分子生物学的アプローチを通じた農業害虫の制御法開発に関する研究。		水口 智江可			

* 特任准教授

** 特任講師

*** 特任助教

(2023年10月1日現在)

研究内容及び教員一覧

専攻	研究室名	研究内容	教員			
			教授	准教授	講師	助教
4 ・ 応用 生命 科学	40 生物有機化学	特異な化学構造と生物活性を示す天然有機化合物の生物有機化学的研究。新しい有機合成反応・合成方法論の開発、天然有機化合物の全合成研究と生物機能の解析・制御に関する研究。	西川 俊夫			宮坂 忠親
	41 生物活性分子	植物や微生物などが生産する生物活性分子の同定、作用機構、応用に関する研究。糖鎖に結合する低分子化合物の分子認識メカニズムの解析と応用研究。		中川 優	近藤 竜彦	
	42 天然物ケミカルバイオロジー	生物現象を司る天然物の単離、構造決定、合成、生合成、および作用機序に関する研究。哺乳動物由来の麻痺性神経毒や、海洋生物の共生現象鍵物質に関する研究。蛍光プローブを用いた新たな標的分子の解析法の開発。	北 将樹	恒松 雄太		
	43 高分子生物材料化学	糖鎖高分子、生物機能高分子、生分解性高分子、植物由来高分子およびこれらを活用した医用高分子の設計、精密合成、機能発現に関する研究。生物学的機能を有するバイオマテリアルの創出。	青井 啓悟	野村 信嘉		
	44 応用酵素学	フラビン酵素やピリドキサル酵素の構造機能相関。イソプレノイドやアミノ酸、ビタミンの生理作用と代謝関連酵素に関する研究。微生物や酵素を用いた有用物質生産に関する研究。古細菌の脂質合成に関する研究。	邊見 久	伊藤 智和		
	45 分子生物工学	新規な生物機能分子、生物反応プロセス、解析システムを創成することを目的とした生物学的研究を行っています。現在、新規モノクローナル抗体スクリーニング、一分子スクリーニング技術を用いたタンパク質工学、翻訳促進配列のメカニズム解明などが主要な研究テーマとなっています。	中野 秀雄		DAMNJANOVIC, Jasmina	加藤 晃代
	46 土壌生物化学	水田生態系各部位に生息する生物群集の構造・特性と機能および生物間の相互作用に関する研究。	浅川 晋	渡邊 健史		
	47 応用微生物学	食品の製造や植物の病気に関わるカビを題材として、分子・化学遺伝学的なアプローチから物質生産とその制御機構に関する基礎研究を進めている。また、微生物の機能を活かし、食資源活用や健康増進への貢献を目指した応用研究も行なっている。	木村 真			前田 一行
	48 食品機能化学	食と健康をキーワードとした基礎研究、特に生活習慣病に関連した内因性因子としての酸化ストレス、及び外因性環境因子としての機能性食品に関する研究。	柴田 貴広			中島 史恵
	49 分子細胞制御学	健康寿命の延伸に資する、ヒトを含む動物細胞の成長・分化・細胞死における情報伝達や細胞内輸送、細胞外分泌、遺伝子発現制御に関する生化学的および分子細胞生物学的研究。		柴田 秀樹	高原 照直	
	50 分子生体制御学	哺乳類におけるタンパク質、核酸とこれら複合体の生合成および生体内での動態、ならびに上記分子の細胞増殖・組織分化を含む生体における作用および制御機構を生化学・分子細胞生物学的に研究しています。乳腺発達と乳汁産生、リボソームを含む翻訳制御機構、および生理活性成分への上反応が主な研究対象です。		灘野 大太		大島 健司
	51 糖鎖生命科学	真核生物における糖鎖の役割の理解と制御を通じて、よりよい健康、環境、食を目指した農医薬融合研究を行っています。現在は主に精神疾患や癌をターゲットとしています。	佐藤 ちひろ			羽根 正弥
	52 動物細胞機能	糖タンパク質や糖脂質の糖鎖代謝変化が個体レベルに及ぼすインバクトをメダカを用いたグライコムクスを含む統合オミックス解析によって解明。	北島 健			吳 迪
	53 動物細胞生理学	真核生物における膜輸送体タンパク質、細胞外マトリックスタンパク質の生理機能と情報伝達に関する研究。		MATURANA Andrés Daniel	新美 友章	
	54 栄養生化学	栄養素(主にタンパク質・アミノ酸)による酵素および遺伝子発現の制御機構。3次元培養による肝臓特異的遺伝子発現の制御機構に関する研究。肝臓の概日リズムのメカニズムと時間栄養学。分岐鎖アミノ酸の代謝と生理機能。		小田 裕昭	北浦 靖之	
	55 食理神経科学	ヒトを含む雑食性の動物は様々な食物を味覚や嗅覚などを用いて評価・選択した後に摂取します。本研究室の研究テーマはその基準の基盤となる神経メカニズムの解明です。	中島 健一朗			RATTANAJEERAKUL, Nawarat***
56 植物情報分子	栄養環境の変化に応答した植物の成長制御について、それに関わる情報分子の同定や生合成、輸送のしくみを分子レベルで解明することを目指した研究を行なっている。	榊原 均	木羽 隆敏	田畑 亮** 橋本(杉本) 美海	BELLEGARDE, Fanny***	
57 生物化学	花・花粉・根など植物の各器官の分化を引き起こす遺伝子の働きについて、生化学的・分子生物学的・分子遺伝学的・形態学的な手法を用いて研究している。また、高等植物とシアノバクテリアの光合成や無機栄養素同化を支える膜タンパク質の機能とその制御機構を研究している。		石黒 澄衛		前尾 健一郎 前田 真一 中西 洋一	
58 ゲノム情報機能学	クロロフィル生合成・窒素固定・概日リズム・ホルモン情報伝達の調節機構に関する研究を、主としてシアノバクテリア・植物を材料として、生化学的、細胞分子生物学的、分子遺伝学的観点から行っている。	藤田 祐一	山篠 貴史		山本 治樹	
59 植物細胞機能	高等植物の成長・分化制御とその環境情報応答に関する研究。植物細胞における人工的な非膜系オルガネラの構築に関する研究。		上口 智治 武田 真			
60 植物統合生理学	内的・外的環境の周期的な変化を感知し、植物が自らの生理現象を秩序立てる仕組みを、主に分子遺伝学・生化学・マルチオミックス研究によって、分子から個体レベルでの秩序の形成や維持の仕組みの解明を目指す。またこの知見を基盤とした植物の生産性の向上に資する技術開発にも取り組む。	中道 範人			村中 智明	

**特任講師
***特任助教

(2023年10月1日現在)